

1, 概要

(1) 調査の目的

本調査では子供たちの、「学力の伸び」を測ることができる「教科に関する調査」、学習に対する意欲や学習方法、さらに家庭での生活習慣等に関する「質問紙調査」のほかに、各教育委員会や各学校の取組についての「質問紙調査」も実施しています。

「学力の伸び」は、子供たちの1年間の学習成果であるとともに、教育委員会や学校の取組の成果でもあります。本調査で示す、子供の「学力の伸び」と「教育委員会や学校の取組の変化」の関係を検証することで、今まで以上に取組の効果を確かめることができると考えています。（埼玉県教育委員会HPより）

(2) 実施日・実施内容

○令和5年5月9日（火）

○県内の公立小・中学校（さいたま市を除く）の小学校第4学年から中学校第3学年の全児童生徒

○教科に関する調査 国語、算数 出題数は各学年26～40題（問題形式は選択肢・短答・記述）

○質問紙調査 学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

（※令和6年度からはC B T {Computer Based Testing(コンピュータ ベースド テスティング)} で実施の予定）

2, 実施教科における本校の学力の伸びの状況

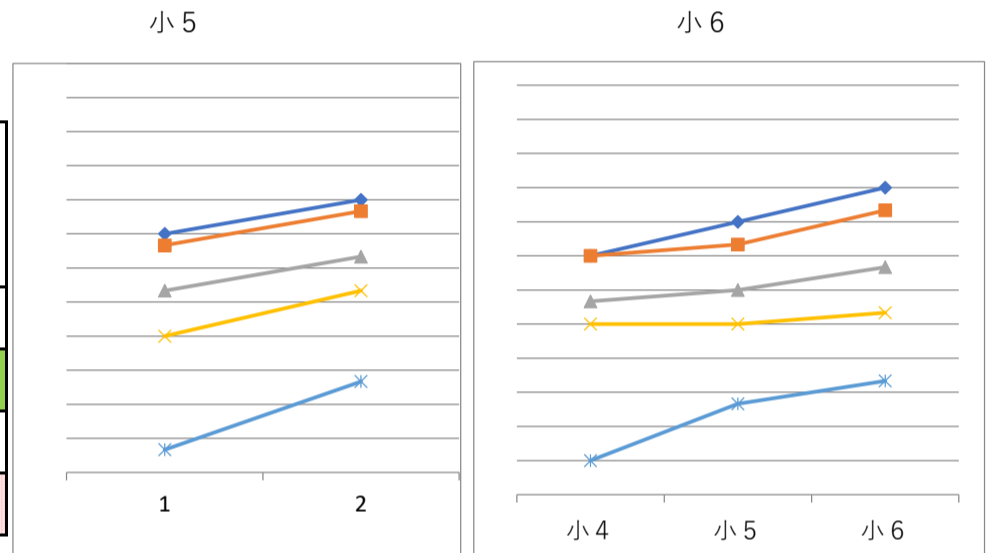
(1) 国語

埼玉県の平均より上

埼玉県の平均より下

※4年生は今年度が最初なので伸びの状況はありません

		学力を伸ばした児童生徒の割合 (%)	学力が伸びなかった児童生徒の割合 (%)	学力の伸び率 (R5学力レベルとR4学力レベルの差の平均)
5年国語	埼玉県	80.2	19.8	3.0
	南小学校	79.5	20.5	3.3
6年国語	埼玉県	77.7	22.3	2.6
	南小学校	75.6	24.4	2.2



- ◆ ⇒ 最大値(最も学力が高い児童・生徒が属する学力レベル)
- ⇒ 75%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- ▲ ⇒ 中央値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- × ⇒ 25%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- * ⇒ 最小値(最も学力が低い児童・生徒が属する学力レベル)

国語結果（分析）

4年生（平均正答率は、県・市平均より高く、学力レベルは県平均に並ぶ）

- ・正答率で県平均より高かった問題は、31問中21問であった。
- ・正答率が高かった問題は、「助詞を選択する」や「文の主語と述語を選択する」などで県平均より10%近くよかった。これは、授業の「こそあど言葉をつかおう」での理解がよかったと考えられる。また、正答率が低かった問題は「指示語の示す内容を文章中から抜き出す」や「ローマ字表記の間違ったものを選択する」などで、県平均より10%以下であった。これはタブレットなどの学習でのローマ字入力の練習不足などが予想される。

5年生（平均正答率は、狭山市・埼玉県より若干低かったが、学力の伸び率が、埼玉県より高かった。）

- ・正答率で県平均より高かった問題は、31問中18問であった。
- ・正答率が高かった問題は、「文の主語と述語を抜き出す」や「漢字辞典の「総画さくいん」で調べるときに出てくる順番に漢字を並べ替える」などの問題で、県平均より5%以上であった。辞書の活用があったと考えられる。
- ・正答率が低かった問題は、「文章の内容についてまとめた表にあてはまる言葉を選択する」などで、県平均より20%以下であった。これは、文章の構成を考察する学習が、不十分であったといえる。

6年生（平均正答率は、狭山市・埼玉県より高く、学力レベルは埼玉県より高かった。県7-B 本校 7-A）

- ・正答率で県平均より高かった問題は、31問中16問であった。
- ・正答率が高かった問題は、「文中の言葉を例にならって適切な敬語に直す」や「推敲によって分かりやすくなった点として適切なものを選択する」などの問題で、県平均より10%以上であった。また、記述式の問題は、県平均より上だった。（県57.5% 本校62.4%）「書く」活動が、しっかりできたといえる。
- ・正答率が低かった問題は、「被修飾語を選択する」や「熟語の漢字の組み合わせの説明として適切なものを選択する」などの問題で、県平均より8%以下であった。これは、ドリル学習などが不十分であったと思われる。

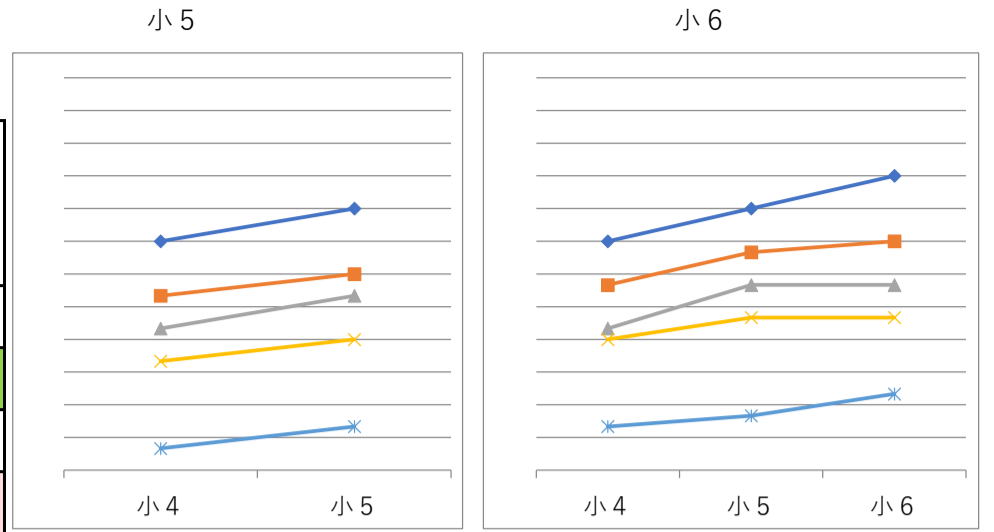
(2) 算数

埼玉県平均より上

埼玉県平均より下

※4年生は今年度が最初なので伸びの状況はありません

		学力を伸ばした児童生徒の割合 (%)	学力が伸びなかった児童生徒の割合 (%)	学力の伸び率 (R5学力レベルとR4学力レベルの差の平均)
5年算数	埼玉県	67.0	33.0	1.8
	南小学校	72.2	27.8	2.5
6年算数	埼玉県	57.7	42.3	1.1
	南小学校	53.8	46.2	0.8



算数結果 (分析)

4年生 (平均正答率は、狭山市・埼玉県より高かった。)

- ・正答率で県平均より高かった問題は、31問中23問であった。学力レベルの平均は県・市に並んでいた。
- ・正答率が高かった問題は、「荷物の重さと箱の重さから、全体の重さを求める」や「3位数×2位数のかけ算を計算する」などで県平均より10%以上であった。また正答率が低かった問題は、「長さの単位についてまとめた図を完成させる」などで、県平均より15%以下であった。これは長い長さ (kmなど) の実感が、不足していたと考えられる。

5年生 (平均正答率は、狭山市・埼玉県より若干低いが、学力を伸ばした児童の割合が、埼玉県より高かった。)

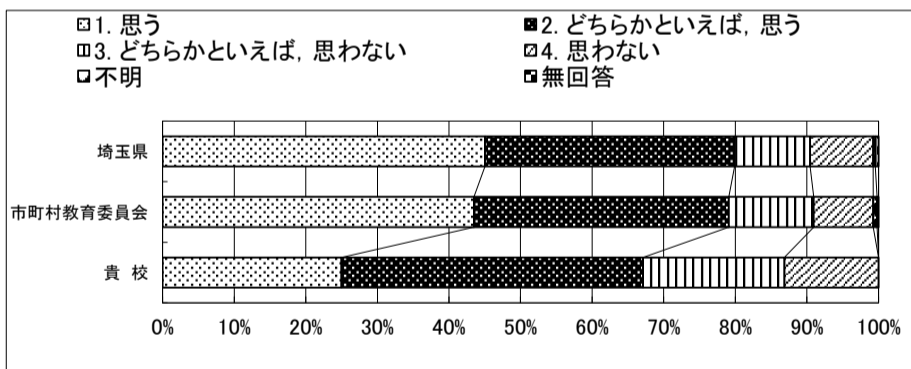
- ・正答率で県平均より高かった問題は、32問中8問であった。学力レベルは市平均より低かったが、県平均に並んでいた。
- ・正答率が高かった問題は、「小数のたし算の計算をする」や「直方体において、頂点の位置を表したものとして適切なものを選ぶ」などで、県平均より12%以上であった。正答率が低かった問題は、「1組の三角定規を組み合わせた図で、ある場所の角度を求める」などで、県平均の12%以下であった。これは、三角定規の角度の大きさの理解が不十分で、それを用いた計算練習の不足も考えられる。

6年生 (平均正答率は、狭山市・埼玉県より高いが、学力を伸ばした児童の割合は、埼玉県・市より低かった。)

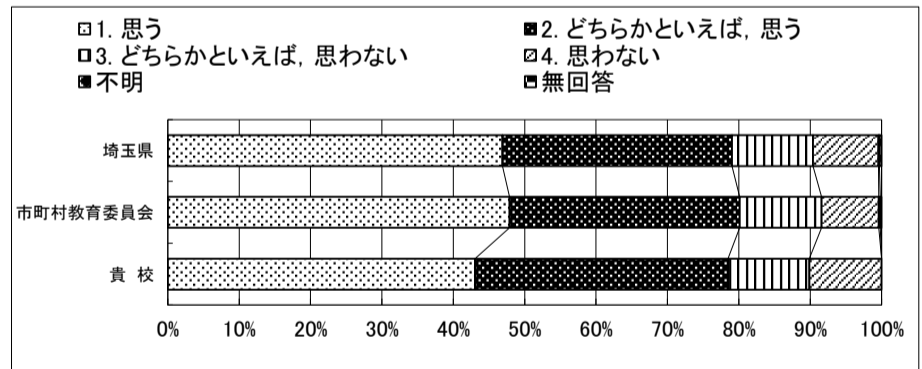
- ・正答率で県平均より高かった問題は、33問中19問であった。学力レベルは県・市平均より高かった。
- ・正答率が高かった問題は、「小数のわり算の正しい答えを求める」や「円柱の展開図の辺の長さが、見取図の対応する長さとして適切なものを選ぶ」などの問題で、県平均より10%近く高かった。正答率が低かった問題は、「文章を読み、分母がちがう分数のひき算の計算をする」や「円グラフから読み取れることを選ぶ」などの問題で、県平均より5%以下であった。これは分数への基礎理解や社会科などでのグラフの読み取り学習が、不十分であったと考えられる。

3, 児童質問紙調査より

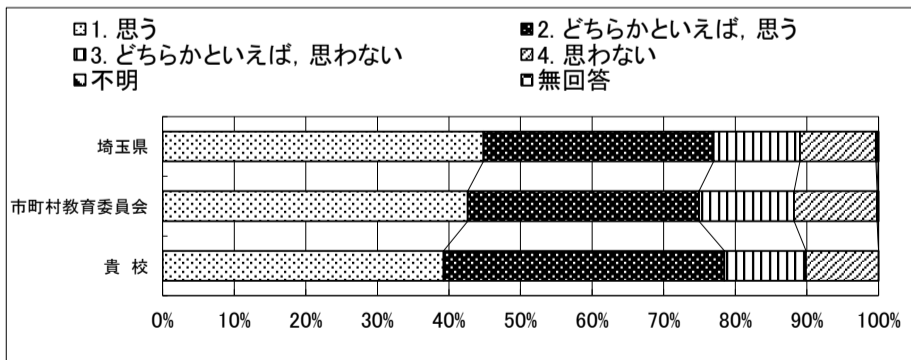
質問 「自分には、よいところがありますか」



4年生



5年生



6年生

※4年生では、自分に自信を持てる児童が、埼玉県や狭山市の平均より少なくなっているが、5・6年生になると県・市の平均と近くなってきている。ただ、「思わない」と答える児童もいるので、家庭や学校でも「やればできる!」といったような自己肯定感を高めることが課題だといえる。そこで、本年度の校内研修は、児童一人一人が学級の中で、自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくような学級活動を中心としている。自己存在感を高めていくことで、自己肯定感を高める手立てを、研究していきたい。

4, 総括

- ①学校においては引き続き45分間の授業を大切に、課題を明示して学習への児童の興味関心が高まるようにしていきます。
- ②どの子にも「わかる、できる」授業の工夫改善に今後も努めていきます。また、自信を持てるように励ましていきます。
- ③無回答の児童を出さないように、最後まであきらめずに問題を解決する態度と能力を育てます。
- ④日々の根気強い取り組みを通し、漢字・計算の習得率を上げます。
- ⑤ゲームやスマホ、インターネット等の使用時間を見直していただき、家庭学習や読書の時間が十分確保できるように、ご協力をお願いします。

令和5年度埼玉県学力・学習状況調査(小学校4年, 5年, 6年)

埼玉県平均より上回っている 0.5以上

埼玉県平均より下回っている 0.5以下

4年国語

	平均正答率	R4小4レベル(平均)
埼玉県	63.6	6-C
狭山市	61.6	6-C
南小	64.2	6-C

分類	区分	平均正答率		
		埼玉県	狭山市	南小
教科の領域等	言葉の特徴や使い方	68.0	68.0	69.0
	情報の扱い方、我が国の言語文化	64.2	60.7	62.0
	話すこと・聞くこと、書くこと	51.3	44.2	51.2
	読むこと	57.5	55.6	63.1
評価の観点	知識・技能	67.1	66.1	67.2
	思考・判断・表現	53.6	48.5	55.7
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-
問題形式	選択式	65.2	62.9	68.4
	短答式	59.6	58.3	58.8
	記述式	-	-	-

4年算数

	平均正答率	R4小4レベル(平均)
埼玉県	63.9	5-C
狭山市	63.4	5-C
南小	67.0	5-B

分類	区分	平均正答率		
		埼玉県	狭山市	南小
教科の領域等	数と計算	71.7	72.6	76.8
	図形	56.5	57.5	56.4
	測定	56.5	54.7	58.8
	データの活用	61.7	58.1	64.7
評価の観点	知識・技能	66.6	67.0	70.4
	思考・判断・表現	52.8	48.4	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-
問題形式	選択式	64.5	63.5	65.5
	短答式	63.4	63.3	68.3
	記述式	-	-	-

5年国語

	平均正答率	R4小4レベル(平均)	R5小5レベル(平均)	令和4年度からの同集団における学力の伸び(平均)
埼玉県	62.7	6-C	7-C	3
狭山市	63.9	6-C	7-B	4
南小	62.6	6-C	7-C	3

分類	区分	平均正答率		
		埼玉県	狭山市	南小
教科の領域等	言葉の特徴や使い方	69.3	70.8	68.7
	情報の扱い方、我が国の言語文化	61.3	61.3	59.5
	話すこと・聞くこと、書くこと	60.0	62.3	65.5
	読むこと	51.0	51.8	50.0
評価の観点	知識・技能	66.6	67.6	65.6
	思考・判断・表現	54.6	56.0	56.2
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-
問題形式	選択式	64.1	64.7	62.4
	短答式	57.1	60.5	63.3
	記述式	-	-	-

5年算数

	平均正答率	R4小4レベル(平均)	R5小5レベル(平均)	令和4年度からの同集団における学力の伸び(平均)
埼玉県	63.0	5-B	6-C	2
狭山市	65.2	5-B	6-C	2
南小	60.7	5-C	5-A	2

分類	区分	平均正答率		
		埼玉県	狭山市	南小
教科の領域等	数と計算	63.4	65.6	62.9
	図形	61.3	64.6	61.9
	測定	64.2	67.0	58.3
	データの活用	63.4	62.0	54.1
評価の観点	知識・技能	64.6	66.7	62.6
	思考・判断・表現	59.5	61.7	56.4
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-
問題形式	選択式	63.6	66.2	62.0
	短答式	62.2	63.9	58.9
	記述式	-	-	-

6年国語

	平均正答率	R3小4レベル(平均)	R4小5レベル(平均)	R5小6レベル(平均)	令和4年度からの同集団における学力の伸び(平均)
埼玉県	60.8	6-A	6-A	7-B	2
狭山市	60.7	6-B	6-B	7-B	3
南小	61.1	6-A	7-C	7-A	2

分類	区分	平均正答率		
		埼玉県	狭山市	南小
教科の領域等	言葉の特徴や使い方	71.4	71.8	72.2
	情報の扱い方、我が国の言語文化	47.7	46.2	43.9
	話すこと・聞くこと、書くこと	51.3	49.5	52.7
	読むこと	53.8	54.4	54.4
評価の観点	知識・技能	67.2	67.3	67.2
	思考・判断・表現	52.9	52.7	53.8
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-
問題形式	選択式	61.7	61.4	60.8
	短答式	57.5	58.2	62.4
	記述式	-	-	-

6年算数

	平均正答率	R3小4レベル(平均)	R4小5レベル(平均)	R5小6レベル(平均)	令和4年度からの同集団における学力の伸び(平均)
埼玉県	56.5	5-A	6-C	6-B	1
狭山市	54.7	5-B	6-C	6-B	1
南小	58.4	5-B	6-B	6-A	1

分類	区分	平均正答率		
		埼玉県	狭山市	南小
教科の領域等	数と計算	60.2	60.2	61.9
	図形	60.3	59.7	65.8
	測定	53.9	50.4	55.0
	データの活用	44.3	38.6	42.0
評価の観点	知識・技能	58.9	57.3	60.1
	思考・判断・表現	47.5	45.3	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	-	-	-
問題形式	選択式	58.6	56.8	60.5
	短答式	52.8	51.0	54.6
	記述式	-	-	-